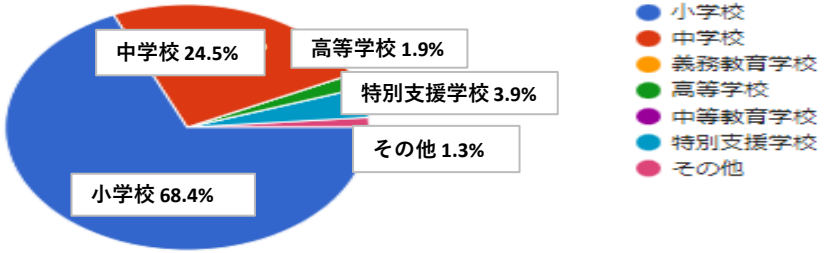
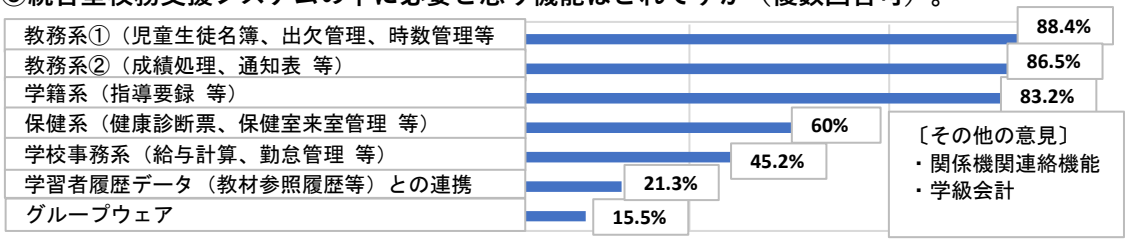
全日教連Webアンケート１月号
「全日教連活動について」
集　計　結　果

全日教連が直接学校現場の声を聞く「直問直答」アンケート。今月のテーマは「統合型校務支援システムの改善」についてです。全日教連調査では約85％の学校に導入（文部科学省調査では全国平均約72％）されていますが、その効果的な利用等については改善の余地等について回答が集まりました。（回答者数155件）。

①あなたの勤務する学校種を教えてください。

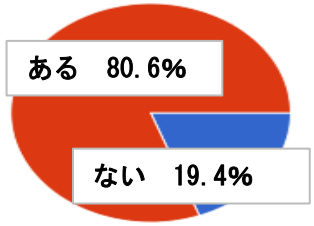


③統合型校務支援システムの中に必要と思う機能はどれですか（複数回答可）。

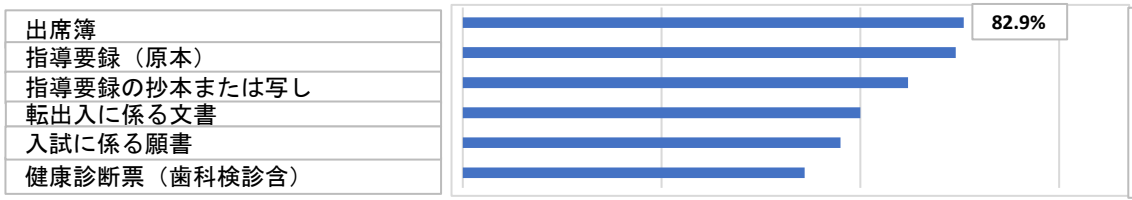


〔その他の意見〕
・関係機関連絡機能
・学級会計

②文部科学省は「全国の学校における働き方改革事例集」を公表し、この中にICTを活用した校務効率化の事例も紹介されています。あなたはこの事例集（サイト閲覧含）を見たことがありますか。



④デジタル化すると良いと考えるものはどれですか（複数回答可）。



〔その他の意見〕
・会計システム（事務、校納金、給食費、学級会計等）
・保護者に提出をお願いする文書（行事の出欠含）
・公務関係の全ての諸帳簿
・旅行・出張命令簿、休暇簿
・各種データ保存ファイル（紙保管の廃止）

このアンケートからの考察

今回の調査では、既に多くの学校で導入（全日教連調査では約85％、文部科学省調査では全国平均約72％の学校に導入）されているが、今後のどのような改善点等を現場は望んでいるかということが明らかとなった。質問②からは、約80％の方が文科省作成の「全国の学校における働き方改革事例集」を見ていることがわかった。これは学校における働き方改革を進めるため、学校現場で意識が高まっていることが表れた結果だと考える。また本資料を校内研修等で活用しているとの声も聞かれたことから、校内においても働き方改革のためにICTを活用する様々な取組が、本資料を参考に進んでいると思われる。質問③及び④の結果からは、教務系の各種文書のデジタル化を望む声が多いことがわかった。また、その他の意見にもあるように、現在のシステムには入っていない各種会計システムや保護者がデジタルで文書を提出することが出来る仕組み、さらに紙での文書保存の廃止等、更なる改善を望む声が多い。今後は、校務系データと児童生徒の額集計データの紐付けや、児童生徒データの一元管理等へと繋げ、教育DXの推進を進めていく必要があると考えている。全日教連では、関連する要望について、文部科学省やデジタル庁等への要望を行って行く。